

スルメイカ釣り

海の安全推進アドバイザー 小野信昭

スルメイカは日本列島周辺海域に分布する外洋性のイカで、古くから日本人にもっとも多く食べられているイカです。外洋性のために釣り場も岸からやや遠く、水深も 100～200メートルと深くなります。



見るからに美味しそうな釣り上げた直後のスルメイカ



イカリングはビールのおつまみに最高です

ボートフィッシングでスルメイカを釣ろうと思うと、居場所を見つけるのに苦労します。イカ類全般に言えることですが浮袋を持っていないうえに身体の密度が水に近いので、魚群探知機を使用してもその存在が発見しづらいのが実状です。スルメイカが好んで捕食するハダカイワシ等を見つけ、近くにスルメイカが居ると信じて仕掛けを降ろした方が釣れることもよくあります。

プラヅノと呼ばれる疑似バリをセットした仕掛けを用いますが、水深が深いこともあり一度の回収で如何に多くのスルメイカを掛けるかが釣果を伸ばすうえで重要で、そのためにプラヅノを 10 本以上繋ぐこともあります。

ご存じのようにどんな料理でも美味しく食べることができるので、つついたくさん釣ろうと夢中になることもしばしばあります。

しかしながら、前述したように外洋性のイカなので、釣り場が陸から遠いうえに荒れやすい場所となります。天候・海況が穏やかな時しか釣り場へ向かわないのは勿論のこと、釣り場に到着した後の実釣中においても天候・海況の変化に注意しましょう。

実は私、過去に外房沖でスルメイカを狙っていた際に、海況悪化に気づいていながらも帰航の決断が遅かったために帰航途中で海が大荒れになり、船速も上げることができない状況となり、かなり怖い思いをした苦い経験があります。

とにかく、実釣中においても天候・海況の変化を気に掛け、少しでも悪い方向への変化を感じたら安全を最優先に考えた早め早めの決断を心掛けましょう。



外洋性のスルメイカは釣り場が沖合なので天候・海況の変化に気を付け、早めの帰港判断が必要